

**名称 アラビアチャノキ**

**他名等** 英名 : khat, kat, qat

**部位等 葉** 備考

**学名 (科名)** *Catha edulis* Forssk (Celastraceae) ニシキギ科 [リーダーズ英和辞典、北海道医療大学薬用植物園植物目録 (アラビアチャノキ属) ]

**生薬名、基原植物和名等** アラビアチャ [北海道医療大学薬用植物園植物目録]

**医薬品として使用実態があるか** No

カートはアラブ諸国やエジプトにおいて覚醒作用のある食物として使用されている。葉を噛むと疲れや眠気を軽減する。

**毒性データ (LD50 等)** LD<sub>50</sub> > 2 g/kg (p.o., mouse)

**アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか** Yes

cathine および cathinone [Dictionary of Plant Toxins]

**麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか** Yes

cathine および cathinone. cathinone はアンフェタミンと同様に交感神経末端からのカテコールアミンを遊離させて交感神経興奮作用を示す。

**主要な二次代謝産物等**

**主要な生理活性**

**重要文献**

Dictionary of Plant Toxins

**その他注意すべき点**

Botanical Safety Handbook 無記載

**指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか** (情報がある場合のみ)

**評価 : A**

アンフェタミンと同様の覚醒作用を持つ cathinone が含まれている。

## 名称 アラビアマツヤク

### 他名等

部位等 全木 備考

学名(科名) *Commiphora abyssinica* (Berg) Engl. (Burceraceae)カンラン科

生薬名、基原植物和名等 アラビアマツヤク [薬用植物学(南江堂)], ミルラノキ [牧野和漢薬大図鑑]

### 医薬品として使用実態があるか Yes?

モツヤクジュと同様に没薬の採取に用いる。没薬の効能は乳香に類似し、駆瘀血、抗炎症、止血の作用がある。没薬の水浸液は各種の皮膚真菌に対して抑制作用のあることが知られている。没薬は粘膜の収斂薬、口や咽頭の炎症に用いられる。ミルラチンキが一般用医薬品として用いられている。

毒性データ(LD50等)なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

### 主要な二次代謝産物等

樹脂に $\alpha$ -、 $\beta$ -、 $\gamma$ -コミフォール酸、コミフォリン酸、 $\alpha$ -、 $\beta$ -ヘラボミルロール酸、 $\alpha$ -、 $\beta$ -ヘラボミルロール、コミフェリンを含む。精油はクミンアルデヒド、オイゲノール、*m*-クレゾール、ピネン、ジベンテン、リモネン、ケイヒアルデヒド、ヘラボレンなどを含む。

### 主要な生理活性

#### 重要文献

#### その他注意すべき点

没薬の基原として、赤松和漢薬は *Commiphora* 属。主に *C. myrrha* としている。

中薬大辞典は *C. myrrha* のみ。

薬用植物学(南江堂)はモツヤクジュ (*C. molmol*) とアラビアマツヤク (*C. abyssinica*) としている。

牧野和漢薬草大図鑑では *C. abyssinica* としている。

以上より、本項とモツヤクを区別せず、*Commiphora* 属として区分を行うことも検討すべきである。

#### Botanical Safety Handbook

*Commiphora madagascariensis* Jacq., *C. molmol* Engl. ex Tschirch and *C. myrrha* (Nees) Engl.: Class 2b; 2d (子宮からの出血が多いときは禁忌)

*C. mukul* (Hook. ex Stocks) Engl.: Class 2b

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

### 評価:A

ミルラに禁忌がある。ミルラの前植物は *Commiphora* sp. であり、本種も含まれると考えられるため、専ら医薬品としておくべきである。モツヤクと本項を合わせて *Commiphora* 属として区分を行うべきかどうか検討が必要である。

## 名称 アルニカ

### 他名等

部位等 全草 備考

学名(科名) *Arnica montana* L. [Com E, BSH] (Compositae) キク科 [European Pharmacopoeia]

生薬名、基原植物和名等 アルニカ [牧野和漢薬草大図鑑]

医薬品として使用実態があるか Yes Com E および EP に *Arnica flower* が記載されている。

一般用医薬品としてはサロメチール・ゾル(佐藤製薬)などに配合されている。

アルニカの精油は局所刺激作用があり、全草のチンキ剤には消炎作用がみられる。フラボン系色素のアルニシンには血圧効果作用、神経に対して興奮作用がある。花は神経興奮、消炎薬として神経痛、挫傷などに、根は興奮、解毒薬として用いられる。[牧野和漢薬草大図鑑]

毒性データ(LD50 等) 精油は LD<sub>50</sub> = 31 mg/kg (i.p., mouse), 123 mg/kg (p.o., mouse)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

### 主要な二次代謝産物等

花にフラボン系色素、苦味成分アルニシン、セスキテルペンラクトン(アルニコライドなど)、根にアルニシン、トリテルペノイド(ファラジオール、アルニジオール)、糖類、C12-13の不飽和鎖状化合物、全草に精油 [牧野和漢薬草大図鑑]

### 主要な生理活性

#### 重要文献

#### その他注意すべき点

かつては *A. chamissonis* Less., ssp. *foliosa* (Nutt.) Maguire も用いられていたが、2000年以降 *A. montana* のみとされた(Herbal Prags and Phytopharmaceuticals)。Mexican Arnica (*Heterotheca inuloides*)の混入を防止する為 EP では純度試験が規定されている。(平成17年度報告書も参考のこと)

#### Botanical Safety Handbook

External use: Class 2d (開いた傷口には使ってはならない。高感受性の患者が長期的に用いるとアレルギー性皮膚炎を起こす場合がある。)

Internal use: Class 2b (米国ではアルコール飲料に香料として添加する場合のみ食品に用いることが認められている。カナダでは食品には使うことができない。)

The Complete German Commission E Monographs p83.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

### 評価: A

Com E および EP に記載されており、また、ヨーロッパで長く医薬品としての使用実態がある。浮腫を起こすなど、皮膚への副作用が強い。また、アメリカ及びカナダで使用制限がある。

## 名称 アロエ

他名等 ケープアロエ、キュラソーアロエ 英名：①②③Cape aloe④Curacao aloe

部位等 葉の液汁 備考 根・葉肉は「非医」、キダチアロエの葉は「非医」

学名(科名) ①*Aloe ferox* Miller ②*A. ferox* Miller と *A. africana* Miller との雑種 ③*A. ferox* Miller と *A. spicata* Baker との雑種 [局方] ④*Aloe barbadensis* Mill. = *Aloe vera* L. [Com E] (Liliaceae) ユリ科

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか Yes 局方記載。USP 記載。Com E 記載。

①少量を苦味健胃剤とし、消化不良、慢性胃カタルに用いるほか、下剤として、常習便秘に有効である。ただし妊娠時、月経時、腹痛、疝痛、嘔吐、嘔気、その他虫垂炎の兆候のあるときは用いてはならない。緩下剤（中程度の強さの下剤）として用いる場合は、生の葉をすりおろしたものを 0.05g、峻下剤（少量で強い作用を起こす下剤）としては 0.1~0.5g をそれぞれ 1 回で服用する。

②便秘に対して下剤として用いる。アロインが腸内細菌により分解されて生じたアロエエモジンは瀉下作用を持つ。

毒性データ（LD50 等）①なし。②LD50 = 250 mg/kg (i.p., mouse)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

アロエの主成分は結晶性苦味物質アロイン (=バルバロイン) およびこれの分解生成物と考えられるアロエエモジンである。局方のアロエはバルバロインを 4.0%以上含む。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

Class 2b, 2c, 2d (腸閉塞、原因不明の腹痛、虫垂炎、大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、痔、腎機能障害、月経時および 12 歳未満の小児には禁忌。8~10 日を超えて使用してはならない。標準的な用量は就寝時 50-300 mg)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

葉肉は食用であるが、葉の液汁は医薬品製造のために採取しているものであり、医薬品である。

名称 イチイ

他名等 アララギ

部位等 枝・心材・葉 備考 果実は「非医」

学名(科名) *Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc. (Taxaceae) イチイ科

生薬名、基原植物和名等 イチイ [赤松和漢薬、牧野和漢薬草大図鑑](アララギ [牧野和漢薬草大図鑑]、オンコ [牧野和漢薬草大図鑑]) 生薬名：一位または一位葉(葉のみ) [赤松和漢薬]

医薬品として使用実態があるか Yes

民間で利尿、通経および糖尿病に用い、果実は咳止めや下痢に用いる。利尿、通経には一位葉 1 日量 10~15g に水 400ml を加え、半量まで煎じて 3 回にわけて服用する。とりたての生薬でもよい。種子は心臓に毒性を示すタキシンを含み、連用すると中毒するので十分注意を要する。

毒性データー (LD50 等) タキソール：LD50 orally in the dog 9 mg/kg body-weight

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Paclitaxel (タキソール) [Dictionary of Plant Toxins, 牧野和漢薬草大図鑑]、タキシン、タクスシン、タキシニン A, H, K, L [牧野和漢薬草大図鑑]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

スチアドピチシン(フラボノイド)

主要な生理活性

重要文献

Dictionary of Plant Toxins, 牧野和漢薬草大図鑑

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

Paclitaxel など、毒性の高い化合物が含まれているため。

## 名称 イヌサフラン

### 他名等

部位等 種子 備考

学名(科名) *Colchicum autumnale* L. (Liliaceae) ユリ科

生薬名、基原植物和名等 イヌサフラン

医薬品として使用実態があるか Yes

通風治療薬コルヒチンの製造原料である。

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

コルヒチン : Highly toxic, with a lethal dose of 10 mg in humans. [Dictionary of Plant Toxins]

種子には 0.4-1.2%、鱗茎には 0.2-0.5%含まれる。[牧野和漢薬草大図鑑]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

中枢性の知覚麻痺と末梢性血管麻痺の作用があり、通風による激痛を特異的に鎮める作用がある。鎮痛薬として通風に用いる。

有効成分のコルヒチンは植物細胞の染色体を2倍にする作用があり、農業用や園芸用の品種改良に用いられる。

重要文献

Dictionary of Plant Toxins, 牧野和漢薬草大図鑑

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

毒性の高いコルヒチンを含有する。

## 名称 イリス

他名等 英名 Orris root [Com E]

部位等 根茎 備考

学名(科名) ①*Iris florentina* L. or *Iris germanica* var. *florentina* (L.) Dykes, ②*Iris germanica* L., ③*Iris pallida* Lam. (Iridaceae) アヤメ科 [Com E]

生薬名、基原植物和名等 ①ニオイイリス (ニオイアヤメ、シロバナイリス)、②ムラサキイリス、③シボリイリス [牧野和漢薬草大図鑑]

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

薬理効果に関しての詳細は不明だが、根茎を健胃、利尿、去痰薬として用いるほか、粉末を散布薬、歯磨き粉、洗粉などの香料、精油を香料原料として用いる。

同属植物 北米の湿地に生える *I. versicolor* L., *I. caroliniana* S. Wats. などの根茎は、ブルーフラッグと称し、西洋民間で消炎、利尿薬として用いるといわれる。

毒性データ (LD50 等) ①② LD50 = 500 mg/kg (i.p., rat) ③なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

根茎に精油のイロン、オイゲノール、メチルオイゲノールのほか、でん粉、脂肪油などを含む。また、根茎には iriflorental、iripallidal などの iridal 類が含まれる。

主要な生理活性

iridal 類には細胞毒性、抗カビ活性、魚類毒性が知られている。LD50 などの毒性データはない。

重要文献

その他注意すべき点

The Complete German Commission E Monographs p359: Risks, none known.

Botanical Safety Handbook

Class 1 (新鮮な根は粘膜に炎症を起こす場合がある)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: B

医薬品としての使用実態があり、また、食経験は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましい。

## 名称 イレイセン

他名等 シナボタンヅル

部位等 根・根茎 備考 葉は「非医」

学名(科名) ①*Clematis chinensis* Osbeck ②*C. manshurica* Ruprecht ③*C. hexapetala* Pallas (Ranunculaceae)  
キンボウゲ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ①サキシマボタンヅル [局方] (=シナボタンヅル [赤松和漢薬]) ②タチセンニンソウ [牧野和漢薬草大図鑑] (=コウライセンニンソウ [赤松和漢薬, 牧野和漢薬草大図鑑]) ③イトクサボタン [牧野和漢薬草大図鑑] (=サンリョウ [牧野和漢薬草大図鑑]) 生薬名：威霊仙 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

210 処方中の配合処方：3 (蛇床子湯、疎経活血湯、二朮湯)

威霊仙の水浸剤は皮膚真菌、黄色ブドウ球菌、赤痢桿菌に対して抑制効果があり、これはアネモニンによると考えられる。浸剤はマウスに対して顕著な血糖量降下作用が認められ、マウスに対して腹腔注射により鎮痛効果が認められた。威霊仙は即効性鎮痛薬として、神経痛、リウマチ、腰痛などのほか言語障害など器官麻痺による疾患、黄疸、浮腫などに用いられる。

威霊仙 1 日量 6-10g を煎じて服用する。

毒性データ (LD<sub>50</sub> 等) protoanemonin: LD<sub>50</sub> = 190 mg/kg (mouse, i.p.) [The Combined Chemical Dictionary on CD-ROM, Chapman & Hall]

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes?

①protoanemonin [BSH]

②protoanemonin [Il *et al.*, *Choson Minjujuui Inmin Konghwaguk Kwahagwon Tongbo* (2004), (5), 48-50]

protoanemonin は炎症性が強い。[The Combined Chemical Dictionary on CD-ROM, Chapman & Hall]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

①anemonin (LDLo = 150 mg/kg (mouse, i.p.) [RTECS]) [He *et al.* *Journal of Chinese Pharmaceutical Sciences* 10, 180 (2001)]

①oleanolic acid glycosides, hederagenin glycosides [Kizu and Tomimori, *Chem. Pharm. Bull.* 28, 2827 (1980); Kizu and Tomimori, *Chem. Pharm. Bull.* 28, 3555 (1980); Kizu and Tomimori, *Chem. Pharm. Bull.* 30, 859 (1982); Kizu and Tomimori, *Chem. Pharm. Bull.* 30, 3340 (1982); Shao *et al.*, *Phytochemistry* 38, 1473 (1995); Shao *et al.*, *Phytochemistry* 42, 821 (1996); Mimaki *et al.*, *J. Nat. Prod.* 67, 1511 (2004)]

主要な生理活性

重要文献

Il *et al.*, *Choson Minjujuui Inmin Konghwaguk Kwahagwon Tongbo* (2004), (5), 48-50

The Combined Chemical Dictionary on CD-ROM, Chapman & Hall

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

①Class 1 (樹液にはプロトアネモニンが含まれるとの報告あり。このものは皮膚と粘膜に炎症を起こす。



炎症を起こす物質のほとんどは乾燥により失われる。）

**指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか** (情報がある場合のみ)

**評価：A**

炎症性の強い protoanemonin の含有が確認されている。

## 名称 インチンコウ

### 他名等

部位等 花穂・帯花全草 備考

学名(科名) *Artemisia capillaris* Thunberg (Compositae) キク科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 カワラヨモギ [局方] 生薬名 茵陳蒿 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

210 処方中の配合処方：3（茵陳蒿湯、茵陳五苓散、加味解毒湯）

スコパロンは利胆作用があり、精油成分には抗カビおよび駆虫作用のほか、利胆作用がある。単味では肝炎、黄疸、じんま疹、むくみなどに用いられ、漢方では消炎性利尿、利疸薬として各種処方に配合される。

黄疸などには単味で一日量 10~20g に 400ml の水を加え、半量になるまで煎じ詰め、3 回に分けて服用する。またじんま疹、むくみなどに同量を 1000ml の水で煎じて服用する用法もある。

毒性データ（LD50 等）なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

### 主要な二次代謝産物等

全草に精油としてβ-ピネン、カピレン、ノルカピレン、カピロン、カピラリン、カピリンのほか、キャピラリシン、キャピラルテミシン A, B, スコパロン (エスクチレン-6,7-ジメチルエーテル)、ゲンクワニン、ラムノシトリン、シルシリネオール、シルシマリチン、苦味質、果実にスコパロンなどが含まれる。

### 主要な生理活性

#### 重要文献

#### その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook

Class 2b（吐き気、腹部膨張、めまいを起こす場合がある。肝炎に対して *A. capillaris* とナツメ *Zizyphus jujuba* を処方された女性 2 人が Adams-Stokes 症候群（脳血流減少によって起こるめまいや失神）を発症した例がある。）

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか （情報がある場合のみ）

### 評価：B

局方に収載されており、使用実態があり、食経験は知られていないため、専ら医薬品としておくことが望ましい。

## 名称 インドサルサ

他名等 英名 Indian sarsaparilla, hemidesmus, East Indian sarsaparilla (BSH)

部位等 根 備考

学名(科名) *Hemidesmus indicus* (L.) Shult. (Asclepiadaceae) ガガイモ科 (BSH)

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか 不明

アユルベーダー生薬である

毒性データ (LD50 等)

なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか 不明

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

2-hydroxy-4-methoxybenzaldehyde (91% of volatiles at steam distn.) 2-hydroxy-4-methoxy benzoic acid, coumarino-lignoids :*Indian J. of Chemistry*, 31B(6), 342-5 (1992)

主要な生理活性

adjuvant effect and antiserum action potentiation: *Toxicol*, 36 1423 (1998).

重要文献

その他注意すべき点

データ不足だが、ネットでみると浴用剤、外用クリーム等に配合されているようである。また、食経験も報告されていない。

*Smilax ornate* (サルサ根) は 皮膚病、梅毒、リウマチに利用される。

Botanical Safety Handbook class 4 (insufficient data)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

その場合の化合物情報

評価 : D

データ不足だが、外用剤、外用クリーム等に配合されているようである。また、食経験も報告されておらず、積極的に食品と判断する材料もない。

## 名称 インドジャボク属

他名等 インドジャボク・ラウオルフィア 英名 Indian snakeroot, (*Rauwolfia radix*) (Com E)

部位等 根・根茎 備考

学名 (科名) *Rauwolfia* (Apocynaceae) キョウチクトウ科

①*R. serpentina*, (L.) Bentham ex Kurs (Com E の Indian snakeroot の基原)、②*R. heterophylla*,  
③*R. vomitoria*, *R. caffra*, *R. obscura*, *R. semperflorens*, *R. natalensis* 等

生薬名、基原植物和名等 ①インドジャボク (牧野)

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

また含有成分レセルピン等は、局方収載

毒性データ (LD50 等)

RTECS *R. serpentina* LD50 i.v.1150mg/kg 他

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

reserpine (局方)、rescinnamine, deserpidine, ajamaline (局方)、他多数

*rauwolfia* alkaloids oral mouse LD50 690 mg/kg, subcutaneous mouse LD50 147 mg/kg

a mixture of alkaloids from *R. serpentina* oral, rat, LD50 183 mg/kg i.p. LD50 100 mg/kg

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes or No

主要な二次代謝産物等

インドジャボク属植物は reserpine を含む

主要な生理活性

血圧降下、不整脈治療

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) 含む

レセルピン

評価 : A

レセルピン等毒性の高いアルカロイドを含む (アルカロイド混合物での急性毒性が劇薬相当)。

## 名称 インドボダイジュ

### 他名等

部位等 樹皮 備考

学名(科名) *Ficus religiosa* L. (Moraceae) クワ科 イチジク属 中薬大辞典(インドボダイジュヒ)

生薬名、基原植物和名等 インドボダイジュ(中薬大辞典) 生薬名 印度菩提樹皮

医薬品として使用実態があるか No ただし、中薬大辞典には収載されている

毒性データー(LD50等) RTECS LD50 extract, i.p. mouse >500mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか 不明

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか 不明

### 主要な二次代謝産物等

bergapten (LD50 8g/kg) and bergaptol (antimicrobial activity): Constituents of *F. religiosa* and *F. infectoria* and their biological activity *J. Indian Chemical Society*, 73(11) 631 (1996).

タンニン類

### 主要な生理活性

樹皮: 民間薬として外用剤(煎汁を疥癬に用いる)、皮なめし、染料

樹皮の汁で口をすすぐと、歯痛を治し、歯茎を丈夫にする(中薬大辞典)

果実は緩下作用

### 重要文献

### その他注意すべき点

ボダイジュは、シナノキ科シナノキ

Botanical Safety Handbook、Com E 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

### 評価: E

毒性の高い二次代謝産物の報告はなく、LD50値を考え合わせると、食薬区分の見直し対象となり得る。

ただし、民間薬として外用剤として用いられたり、皮なめしや染料として使用されるなど、積極的に食品と判断する材料もない。

## 名称 インヨウカク

他名等 イカリソウ 英名 Epimedium herb (局方)

部位等 地上部 備考

学名 (科名) *Epimedium pubescens* Maximowicz, *E. brevicornum* Maximowicz, *E. wushanense* T.S. Ying, ①*E. sagittatum* Maximowicz, ②*E. koreanum* Nakai, ③*Epimedium grandiflorum* Morren var. *thunbergianum* Nakai 又は ④*E. sempervirens* Nakai (Berberidaceae) メギ科 (局方)

生薬名、基原植物和名等 ①ホザキイカリソウ ②キバナイカリソウ ③イカリソウ ④トキワイカリソウ 生薬名 淫羊藿

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等)

RTECS: DNA repair, *Bacillus subtilis* 100g/L (crude drug extract)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

アルカロイド、magnoflorine *Yakugaku Zasshi*, 77, 114-115, 212-213 (1957), *Zhongguo Zhong Yao Za Zhi*, 21, 681-682 (1996)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes or No  
主要な二次代謝産物等

Icariin, icarisid I-II, epimedin A-C *Phytochem.* 27, 3641-3643 (1988), *Planta Med.* 56, 277-280 (1990)

Icariside 類 *Chem. Pharm. Bull.* 35, 1190-1117, 3713-3719 (1987) など

主要な生理活性

Effects on the antibody responses *Int. Immun.* 1, 935-944 (2001)

immunomodulatory effect *Planta Medica*, 63, 316-319 (1997)

Androgenic activity *Zhong Guo Yun Dong Yi Xue Za Zhi*, 1, 80 (1998)

重要文献

H. Wu, E. J. Lien, L. L. Lien, Chemical and pharmacological investigations of *Epimedium* species: a survey, *Progress in Drug Research*, 60, 1-57 (2003).

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 2d: other specific use restrictions as noted (Not for long-term use)

possible side effects of extended use include dizziness, vomiting, dry mouth, thirst and nosebleed. In very large doses, Japanese epimedium can cause respiratory arrest and is reported to cause hyperreflexia to the point of mild spasm.

評価 : A

局方収載医薬品である。また、アルカロイドとして magnoflorine を含む。さらに BSH で、長期使用の禁止や副作用に関する記載がある。

## 名称 ウマノスズクサ属

### 他名等

部位等 全草 備考

学名(科名) Aristolochia 属 (Aristolochiaceae) ウマノスズクサ科

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか No

生薬として中国で用いられていたが、Aristolochic acid を含んでいるので、流通禁止

広防已(生薬名) *A. fangi*; 漢中防已(生薬名) *A. heterophylla*; 関木通(生薬名) *A. manchuriensis* Kom.

キダチウマノスズクサ他(難波和漢薬)

毒性データー (LD50 等)

RTECS: *A. indica*, TDL0 525mg/kg oral mouse, LD50 375 mg/kg i.p. mouse, *A. moupinenseis* LD50 3560 mg/kg oral mouse 他多数

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

アルカロイド *A. debilis*: ウマノスズクサ Aristolochic acid A, aristololactam, cyclanoline 等 他

*A. contorta*: マルバノウマノスズクサ、

Aristolochic acid is present in many species of *Aristolochia* (Medicinal Natural Products, Dewick 著)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか Yes or No

主要な二次代謝産物等

Aristolochic acid 類

主要な生理活性

Aristolochic acid: nephrotoxic, acute kidney failure

重要文献

毒性情報 *New England J. Medicine* (June 8, 2000), 発がん性 *Mutation Research* 515, 63-72 (2002)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook; *A. clematitis*, 2b: not to be used during pregnancy, Aristolochic acid (herb: 0.03-0.3%, root 0.4-1.1%); *A. debilis*, 2b; *A. serpentaria*, 2b. 但し、Recent concerns regarding weight loss preparations which contain herbs high in aristolochic acid have raised the question of the potential for kidney damage in human. の記載

局方のサイシンはウマノスズクサ科だが *Asiasarum* 属

評価: A

発ガン性が疑われ腎障害をおこす Aristolochic acid を含む。

## 名称 ウヤク

他名等 テンダイウヤク

部位等 根 備考 葉・実は非医

学名(科名) *Lindera strychnifolia* Fernandez-Villars (Lauraceae) クスノキ科 (局方)

生薬名、基原植物和名等 テンダイウヤク (局方)

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等)

同属植物 *Lindera melastomacea*, *Lindera griffithii* (根以外) LD50: 121 mg/kg i.p. mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

alkaloids from *Lindera strychnifolia*, *J. Nat. Prod.* 47, 1063 (1984)

boldine, (+)-reticuline LD50: mouse, i.p. 56 mg/kg, rat, i.p. 216 mg/kg

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

linderene, linderalactone 等 (セスキテルペノイド)

eudesmane sesquiterpenes (*J. Nat. Prod.* 64, 286 (2001), secoeudesmane sesquiterpenoids (*CPB*, 47(7), 1056 (1999))

bisesquiterpenoid (*Phytochem.* 46(7), 1283 (1997)), furanosesquiterpens (*TL*, 51, 4583 (1975))

constituents of essential oil (*日本農芸化学会誌*, 52(11), 533 (1978))

主要な生理活性

prolyl endopeptidase inhibitors from the roots of :*BPB* 25(8), 1049 (2002)

重要文献

*J. Nat. Prod.* 47, 1063 (1984)

その他注意すべき点

コウシュウヤク (衡州烏薬) *Cocculus laurifolius* DC (ツヅラフジ科) もアルカロイドを含む

*Botanical Safety Handbook* 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

局方収載医薬品であり、劇薬である(+)-reticuline を含む。



## 名称 ウワウルシ

他名等 クマコケモモ 英名 Uva Ursi Leaf (局方)

部位等 葉 備考

学名 (科名) *Arctostaphylos uva-ursi* (L.) Sprengel (Ericaceae) ツツジ科 (局方)

生薬名、基原植物和名等 クマコケモモ (局方)

医薬品として使用実態があるか Yes 局方 Com E

毒性データ (LD50 等)

arbutin: TLD0, 13.6g/kg, rat, oral

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか 不明

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes or No

主要な二次代謝産物等

arbutin, methylarbutin (フェノール配糖体)

gallic acid ellagic acid ursolic acid (タンニン類) over 10% (Botanical Safety Handbook に記載)

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

類似生薬としてコケモモ *Vaccinium vitis-idea* L. var. *minus* Loddig. Cowberry (一般に食品と供される添加物: カウベリー色素の原植物)

RTECS, crude extract, DNA repair system (*Bacillus subtilis*, 100g/L) *Mutation Research* 97,81 (1982)

Botanical Safety Handbook 2b: not to be used during pregnancy, 2d: other specific use restrictions as noted

ウワウルシの果実はヨーロッパで利用されていた。葉をスペイン、フランス、ドイツから輸入。

医薬品情報検索サイトでは、検索されない。

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: B

局方収載医薬品であり、Com E にも収載され、BSH に禁忌が記載されている。

## 名称 ウンカロアポ

他名等 英名 umckaloabo

部位等 備考

学名 (科名) *Pelargonium reniforme* Curt., *P. sidoides* DC. (Geranioacea) フウロソウ科 (*Zeitschrift fuer Naturforschung, C: Journal of Biosciences* (2000), 55(7/8), 528-533 (1977), 117(41), 1655-60)

生薬名、基原植物和名等 ニオイゼラニウム

医薬品として使用実態があるか Yes ドイツで医薬品として申請中

毒性データ (LD50 等)

申請中のものは 48.5mL/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes or No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

O-galloyl-C-glycosyl-flavones (*Phytochem.* 59, 419-24 (2002))

coumarines (*Z. Naturforschung C, J. Biosciences*, 55, 528-533 (2000))

ellagitannins (*Phytochem.* 54, 701 (2000)) 他

essential oil (*Flavour and Fragrance J.* 13, 209-212 (1998))

主要な生理活性

immunomodulatory principles (*Phytotherapy Research* 12, 122-126 (2001))

antibacterial activity (*Planta Medica*, 63, 508-510 (1997))

重要文献

Compilation and meta-analysis of randomized placebo-controlled clinical trials on the prevention of respiratory tract infections in children using immunostimulants 医薬品を意識しメタアナリシス (*J. Investigational Allergology and Clinical Immunology* 11, 235-246 (2001))

その他注意すべき点

2002年11月15日新規

Botanical Safety Handbook: 無記載、*P. graveolens* は class 1

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: B

ドイツで医薬品として申請中。医薬品を意識したメタアナリシスの文献がある。

名称 エイジツ

他名等 ノイバラ

部位等 果実 偽果 備考

学名(科名) *Rosa multiflora* Thunberg (Rosaceae) バラ科 (局方)

生薬名、基原植物和名等 ノイバラ (局方)

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等)

RTECS LD50 i.p. mouse 127g/kg (root extract)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

平成17年度の報告書を参照のこと

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか Yes or No

主要な二次代謝産物等

triterpenoids, triterpene saponins (*Natural Medicine*, 55(4), 217 (2001))

triterpenoic acid (rosamultin) (*Xaoxue Xuebao*, 18(4), 314-6 (1983))

$\beta$ -sitosterol, 5 $\alpha$ -stigmastane-3 $\beta$ -dione, scoparone, salicylic acid (*Yakugaku Zasshi*, 100, 466-7 (1980))

multiflorin A and B (kaempferol glycosides, quercetin glycosides 薬誌 96,1217-22 ; 284-8 (1976))

主要な生理活性

しゃ下作用

緩下剤 配合剤の原料。一回分 0.85~1.7g、粉末の場合は 0.335~0.67g、いずれも一日 1~3 回。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載 Com E 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : B

局方収載医薬品であり、本研究により含窒素化合物が単離された。

## 名称 エニシダ

### 他名等

部位等 葉、枝 備考

学名 (科名) *Cytisus scoparius* Link. (Leguminosae) マメ科 (赤松和漢薬)

生薬名、基原植物和名等 エニシダ 生薬名 金雀児 (赤松和漢薬)

医薬品として使用実態があるか Yes

硫酸スパルティン (日本全薬) かつて、局方に収載されていたようであるが、現在は動物薬としての使用と考えられる。

毒性データ (LD50 等)

>1 g/kg i.p. mouse sparteine: i.p. 18 mg/kg mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

sparteine (quinolizidine alkaloid)

lupanine derivatives: ester alkaloids (*Phytochem.* 36, 309-11 (1994))

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes or No

主要な二次代謝産物等

前述のアルカロイド

主要な生理活性

sparteine sulfate (子宮筋収縮) lupine alkaloid に近い

重要文献

*Phytochem.* 36, 309-11 (1994)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook, Class 3: Herbs for which significant data exist to recommend the following labeling: to be used only under the supervision of an expert qualified in the appropriate use of this substance. Labeling must include proper use information; dosage, contraindications, potential adverse effects and drug interactions, and any other relevant information related to the safe use of this substance.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

劇薬である sparteine を含む。また BSH も class3 で要指示薬相当。